



亀岡市人権啓発だより 第73号

編集／発行：亀岡市生涯学習部人権啓発課
〒621-8501 亀岡市安町野々神8番地
TEL 25-5018
E-mail: jinken-keihatsu@city.kameoka.lg.jp

平和祭協賛 ヒューマンシネマ2026

亀岡市は8月を平和月間とし、京都府は人権強調月間としています。すべての人が、お互いを認め合い、幸せを感じながら生きることができ平和な社会は、みんなの願いです。

命の尊さ、平和の大切さをあらためて考える機会として、映画上映会を行いますのでご友人やご家族と一緒にご参加ください。

開催日：8月8日（土）

場 所：ガレリアかめおか

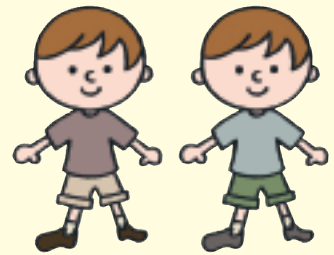
入場無料
(当日受付)

定員200名(先着順)

うみとりくのからだのはなし (人権啓発アニメ 16分)

午前10:00～(開場 午前9:30)

ふたごの「うみ」と「りく」はそっくりだけど、全然違う。
りくはお母さんになでられるのが好きだけど、うみはなでられるのが苦手。
そんな2人といっしょに、みんながそれぞれのからだを大切にするためには、
どうしたらよいのか、相手を思いやる大切さや、からだを守ることについて考
えた作品です。



野生の島のロズ (102分)

午前10:20～・日本語字幕付

偶然無人島に流れつき、目を覚ました最新型アシストロボットのロズ。野生の島をさまよう中で、動物たちの行動や言葉を学習し、次第に島に順応していきます。

小さなガンのヒナを育てることをきっかけに、仲間や家族の大切さを学び、動物たちと出会いながら少しずつ「心」を育んでいく心温まる作品です。



35年目のラブレター (120分)

午後1:30～(開場 午後1:00)・日本語字幕付

十分な教育を受けることができず、文字の読み書きができない西畑 保は、大人になっても生きづらい日々を過ごしてきました。やがて最愛の妻となる餃子と出会い結婚しますが、幸せを手放したくないばかりに、読み書きできないことを彼女に打ち明けられずにいます。ついに事実が露見し保は別れを覚悟しますが、「今日から私があなたの手になる」と告げてくれた餃子は、どんな時も寄り添い支えてくれました。そんな彼女へ人生初のラブレターを書くため、保は定年退職後に夜間中学に通い始めます。



8月8日(土)のヒューマンシネマで上映される作品のほかにも、人権について考えるきっかけになる作品がたくさんあります。

あたたかい気持ちになれたり、考えるきっかけになったり、新たな視点に気付いたりできるものを一部紹介します。

市立図書館で借りられる本もあるので、ぜひ一度手に取ってみてください。

autumn
color

詩

『私と小鳥と鈴と』
『こだまでしょうか』

作/金子みすゞ

教科書やテレビのCMでもなじみがあるかもしれません。

金子みすゞさんの詩には何気ない日常が描かれた、あたたかい気持ちになれる作品が多くあります。



小説

『さまよう刃』

著/東野圭吾

少年犯罪と被害者遺族の心情が描かれ、正義とは何か、矛盾や葛藤とともに考えさせられる作品。ドラマ化・映画化もされました。

『護られなかった者たちへ』

著/中山七里

東日本大震災から数年、人格者と言われる人物が被害者となる事件が起こる。関係者それぞれに、被災や生活保護の受給など様々な事情や過去が。映画化されました。

漫画

『聲の形』

作/大今良時

聴覚障がいのある同級生へのいじめがきっかけで、自分もいじめの標的になっていく。高校生になって再会した二人と周囲の人々の物語。アニメ映画化もされました。



『放課後カルテ』

作/日生マユ

小学校の保健室が舞台の医療漫画。日々子どもたちを観察し、子ども自身も気づかない病気のサインを見つけて救う。ドラマ化されました。



『ペコロスの母に会いに行く』

作/岡野雄一

忘れていく記憶。でも消えない愛情。認知症を患う母との日々をあたたかい視点で描いた、心に染みる笑いと涙の物語。映画化されました。

『リアル』

作/井上雄彦

病気や事故でそれまでの生活が一変した主人公たちが、車いすバスケットと出会ったことで、自分の人生と向き合い、葛藤し、成長していく物語。現在も連載中です。



映画

『かがみの孤城』

鏡に吸い込まれた先の孤城で出会った、学校に通えない中学生7人は、願いの叶う鍵を探すうちにそれぞれの抱えた事情を知る。原作もありますがアニメ映画になっているので、ご家族で見るのにおすすめ。一歩踏み出そうと思える作品です。



『あんのこと』

虐待を受けて育った少女は薬物の使用で逮捕されたが、手を差し伸べてくれた刑事たちに心を開き更生の道を歩む。感染症による孤立や、縁を切れない親との関係など、社会問題が多く描かれ、どこかの誰かの話ではない、と考えさせられます。



『最強のふたり』

実話が元になった映画。障がいのある男性と、意図せず介護をすることになった青年が、外国籍の人への差別・貧困・障がいのある人への差別や偏見に悩みながらも、対等な関係を築いていく。ユーモアもあって明るい映画です。



『ザ・ピーナッツバター・ファルコン』

プロレスラーを夢見るダウン症の青年は憧れのレスラー養成学校を目指して養護施設を脱出。出会った漁師と看護師も一緒に冒険の旅を続ける。偏見や思い込みを払拭し、本当の自分を見つけるロードムービーです。



人権擁護委員をご存じですか？

～ 身近なパートナー ～

人権擁護委員は、「人権擁護委員法」に基づいて法務大臣から委嘱された民間の人たちで、差別やトラブルなどの相談対応や人権を守る活動をしており、現在全国で約14,000人が活動されています。

亀岡市でも11人の人権擁護委員が活動されており、地域の皆さんに人権について関心を持ってもらえるように啓発活動を行ったり、差別やトラブルなどさまざまな人権に関わる相談を聴き、適切な相談先や解決方法の助言をされています。

活動内容の紹介

人権の花運動

小学校と丹波支援学校亀岡分校で人権の花（スイセン）を育てます。



街頭啓発

スーパーや駅で啓発活動を行っています。



特設人権相談の開設

- 亀岡市特設人権相談 随時開催
(4日前までに要予約) TEL:25-5018
- 京都地方法務局 園部支局 随時開催 (要事前予約) TEL:62-0380

その他の相談窓口

- みんなの人権110番 TEL:0570-003-110
- 法務局LINEじんけん相談 ID:「@linejinkensoudan」
- こどもの人権110番 TEL:0120-007-110
- インターネット相談
インターネット人権相談 検索



memo

亀岡市の人権擁護委員

11人の皆さんが活動されています。(敬称略、五十音順)

江 加 中 山	口 茂 川 内	昌 恵 津 子 寛 照	道 津 子 寛 幸	大 川 中 吉	井 田 村 田	龍 和 雄	樹 歌 子 一 恵	桂 清 藤	喜 水 村	久 浩 次 かる
---------	---------	-------------	-----------	---------	---------	-------	-----------	-------	-------	----------

(令和8年7月1日現在)

まなびのページ

ちょっと考えてみませんかシリーズ No.36

～ヘルプマーク～

このマーク、見たことがありますか？

ヘルプマークは、外見からは支援が必要とわかりにくい人(妊娠初期や内部障がい、難病、義足・義手を使う人など)が、助けが必要なことを示すためのマークです。



2012年に東京都が考案したもので、現在は全国の自治体や公的機関の窓口で配布されており、亀岡市役所でも障がい福祉課の窓口と総合案内所で配布しています。

使い方と対応のポイント

表示する人



カバンや服に付ける、見える場所に置くなどで助けを示します。
(提示は任意です)

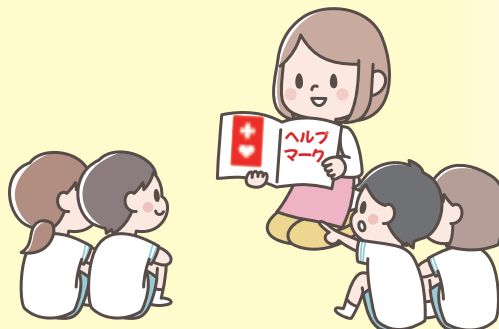
周囲の人



その人が困っているようであれば「何かお手伝いしましょうか？」と声をかけ、相手の希望に応じます。理由を詮索したり写真を撮ったりしないでください。

家族や子どもへの教え方

日常会話の中でヘルプマークの意味を伝え、「困っていそうな人には優しく声をかける」ことを具体的に練習しておくとう安心です。



ヘルプマークは助けを求めるサインであり、差別や同情の対象ではありません。

障害者権利条約の採択から20年

2006年に国連総会で障害者権利条約が採択されてから、今年で20年です(日本は2014年に批准)。ヘルプマークの普及は、条約が掲げる原則(障がい者の尊厳、自律および自立、差別されないこと、社会参加など)に合致します。見えない困りごとに気付き、小さな配慮を日常に取り入れることで、誰もが地域で安心して暮らせる社会づくりにつながります。まずは意味を知り、周囲に伝え、実際に手を差し伸べることから始めましょう。